東大クルー
遠征記

1936. 6～8

マロー・レガッタ

ヘンレー・レガッタ

オリンピック・レガッタ

島田　恒夫

偉大なるオアーズマン

この冊子は、昭和11年(1936) 8月、ベルリンで開催された第11回オリンピック大会に出場した東京帝国大学・エイトクルーが、その前哨戦としてイギリスの伝統あるレガッタに参戦し好成績を収めるとともに、日本のボートの存在を世界に知らしめた報道記事を収録したものである。(出典：東京朝日新聞)

ベルリン五輪大会のエイトで劇的な勝利を収めたワシントン大学・クルーを描いた『ヒトラーのオリンピックに挑んだ若者たち』を読んで感動した私は、「あのオリンピックでのボート競技は、どのように報道されていたのだろうか」と思い、当時の新聞の縮刷版をひも解いてみた。しかし大会で好成績の競技の報道に紙面が割かれ、ベルリンでは振るわなかったボートについては、見るべき記事はなかった。

しかし五輪代表決定戦で、日本記録を更新してエイト代表になった東大クルーの前評判は極めて高く、イギリスでのレガッタ参戦の状況はかなり詳細に報道されていた。私は、東大がマロー・レガッタで優勝したということは知っていたが、その事実だけで、あのクルーがどのような戦いをしてきたかについては殆ど知らなかった。

今回当時のボート関係記事を収集してみて、80年前のことではあるが、東大クルーに学ぶべきことが非常に多くあることを改めて認識した。

東大クルーがベルリン五輪大会の日本代表になったのは、前年の6月、つまり五輪大会の1年2か月前である。これだけの長い準備期間を通じて、精神的に緩むことなく高い水準を維持していったということは驚くべきことである。

次に気持ちの持ち方と健康管理である。東京からベルリンまで、その殆どは列車の旅で、狭い車内ではトレーニングは思うに任せず、「停車駅では駆け足をやった」程度で、シベリヤの気温は36度に達していたという。単調な景色と慣れない車内食―このような悪条件下での半月にも及ぶ長旅は、精神的にも肉体的にもかなりの困難に遭遇したことは想像に難くない。しかしクルーはこれを乗り切って、マロー・レガッタで優勝し、さらにヘンレー・レガッタにおいても好成績を残している。

東大クルーの軽量艇を駆ったハイピッチ漕法の艇速は、ボート発祥の地ロンドンにおいて大きな反響を呼び、殆ど知られていなかった日本のボートのレベルを大いに知らしめたのである。

現地からの報道では「日曜各紙は筆を揃えて東大クルーの驚嘆すべき技量、特に素晴らしく速いピッチと一心同体の如き整然たる漕法に敬意を表し、諸国との対戦を予想して血を沸かせている」としている。また「日本選手の如何にも学生らしいスポーツ

マン・ライクな謙虚な挙動や常に微笑を忘れぬ態度は、紳士の国イギリスに多大の好印象を与えている」と伝えており、「日本はクルーと同数の外交官を送ったよりも、一層高い国際親善の実を挙げている」と称賛され、素晴らしいスポーツ活動によって大きな足跡を残したのである。

日本出発 5/18、シベリヤを横断してロンドン着が 6/5、マロー・レガッタ 6/20、ヘンレー・レガッタ 7/2、ベルリン大会 8/11 ―という過密日程の中で凄い足跡を残している。東大クルーが、このような偉業を成し遂げ得た要因を次のように推測した。

代表決定からの 1 年余、高いレベルを保ってきたのも、代表権の奪取は目的への通過点ととらえ、強い使命感と飽くなき闘魂を下支えとして、完全に「一つのクルー」を作り上げたからに他ならないと思う。即ち、オール一本一本への集中力を研ぎ澄まし、一本たりとも疎かにしない張りつめた重量練習によって身に付けた所産であったと理解する。

ロンドン各紙での評価に「･･･クルー全体が全く一心同体となって、ただ一人が漕いでいる如く、ピッチの上げ下げが自由自在なのも驚異の的となっている」と報じられているが、このクルーが「ローイング」を極めたからこそ、漕艇環境の激変下にあっても動ずることなく「一艇一心」を表現して戦い、ボート発祥の地の専門家をして驚嘆せしめたのだと思う。

これだけのことを平然とやり遂げたクルー、そしてスポーツマンとして高い称賛をうけた東大クルーのメンバーは、正に『偉大なるオアーズマン』であった。

日本のボートが外国を転戦し、これ程までに足跡を残したことは希有なことである。我々はこの東大クルーから多くのことを学び、日本のボートを再び世界のレベルへと飛躍させていくことを願うものである。

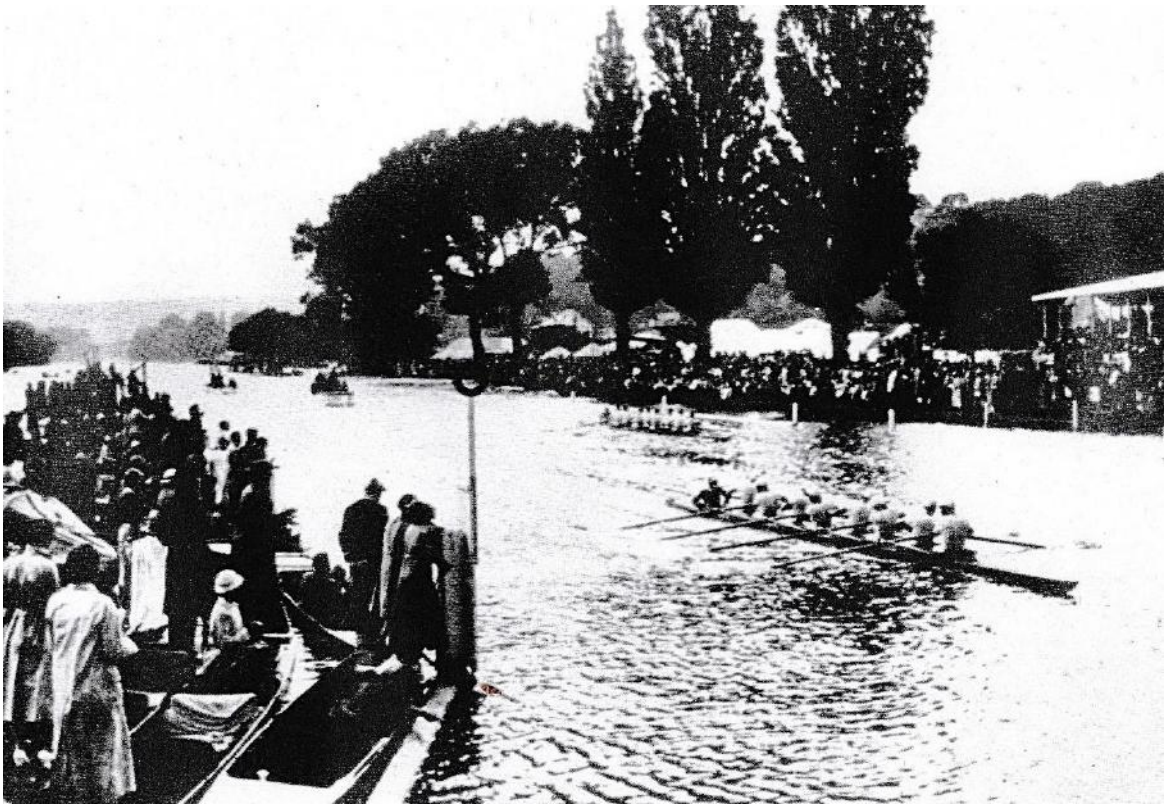
なおオリンピック大会において東大クルーは、グリュナウ湖の風と波に阻まれ準決勝に勝ち進めず敗退した。しかしロンドンの専門家達は使用艇『旭』にも注目し「彼等の艇は、イギリスにおけるものと比較してより短く、より軽く、舳から舵までが文字通り流線形を成しており、艇の進行もピッチングがなくスムーズに水面を滑っていく」と高性能に驚嘆し、リアンダー・クラブから造艇の注文を受けるに至るなど、東大クルーは世界のボート界に大きな波紋を広げて欧州遠征を終了した。

平成 27 年(2015) 11 月 03 日

東北大学 図南会　島田 恒夫 (昭 31 入)

マーロウ・レガッタ優勝

優勝カップ。東大エイトクルーのメンバーが漢字で刻まれている



マーロウ・レガッタ決勝レース。手前が東大

【この写真は淡青会のご厚意により「東京大学漕艇部百年史 下巻」から転載したものです】

わが軍堂々英軍を撃ちとる

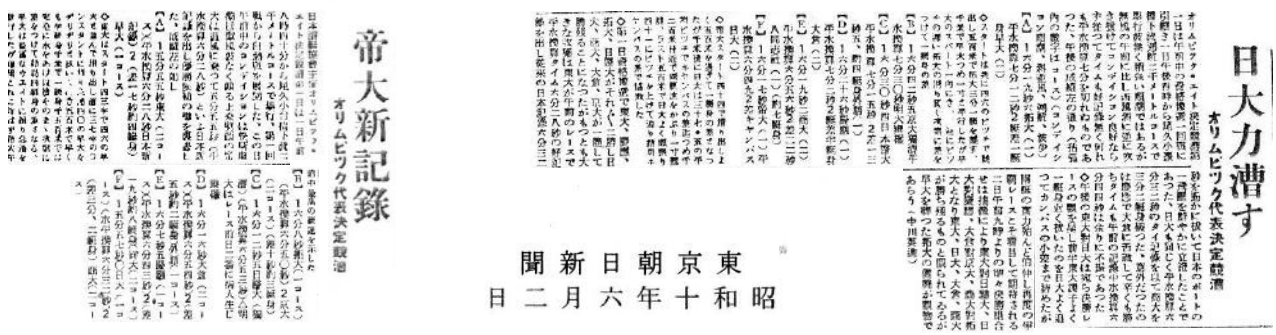
せまり來るオリムピック制覇をめざすわがボートチームの精鋭はその門出に英京ロンドン・ケムブリッヂ兩代表とマロー・レガッタに相まみへ見事にこれを撃ちとり英漕艇競漕史上に燦々たる大記録を殘した、寫眞はテームス河上猛練習の我クルー。

The Japanese Olympic eight oared crew captured the Marlow-on-Thames regatta.

(3) 第八九五二號 定價六錢 一ヶ月壹圓
定期刊行物取扱之事 第三種郵便物認可
THE ZIJI-SHASIN-SOPPO

この写真は 一橋大学四神会 畠山雄三郎氏から提供を受け収録したものです】

ベルリン・オリンピック大会　代表決定戦



日大力漕す

オリムピック代表決定競漕

帝大新記録

オリムピック代表決定競漕

東京朝日新聞

昭和十年六月二日

日本漕艇協会主催オリンピック・エイト決定競漕第一日は、午前八時四十分から尾久小台橋下流 2000m コースで挙行、第一回戦から白熱戦が展開された。この日午前中のコンディションは快晴・順潮・横微風・波なく頗る上乗、劈頭の帝大は追い風に乗って 5 分 55 秒(平水換算：6 分 28 秒)という日本新記録を出し優勝候補の噂を裏書きした。成績は以下の如し。

A　① 帝大　　5’55”(平水換算：6’28”)　　② 早大　　差 17”　　4 艇身

◈ 帝大はスタート 43.5 で 46 の早大と並んで滑り出し、直ちに 37.5 のコンスタントに移り力漕 40 の早大をじりじりと抜いて行き 500m で早くも半艇身、1500m では完全に水を開け、以後そのまま次第に差をつけて結局 4 艇身の差となる。早大は豊富なウェイトに頼り急漕を敢行したが、艇足これに伴わず、帝大は午前中の最高の艇速を示した。

B　① 拓大　　6’08”(平水換算：6’50”)　　② 京大　　差 10”　　3 艇身

C　① 日医大　6’12”(　〃　：6’53”)　　独漕

D　① 大倉　　6’16”(　〃　：6’54”)　　② 外語　　差　5”　　2 艇身

E　① 慶応　　6’07”(　〃　：6’43”)　　② 同志社　差 19”　　8 艇身

F　① 日大　　5’57”(　〃　：6’32”)　　② 商大　　差　5”　　2 艇身

オリンピック・エイト決定競漕第一日は、午前中の資格予選一回戦に引き続き、1 日午後 4 時から尾久小台橋下流遡行 2000m コースで挙行。波なくやや強い順潮であるが、無風の午前に比し西風斜に逆に吹き抜けてコンディション良好ならず。従ってタイムも好記録なく、何れも平水換算 7 分を切れぬものであった。

コンディション：順潮、斜逆風、遡行、波少

A　① 拓大　　6’19”(平水換算：7’12”)　　② 早大　　1 艇身

◈スタートは共に 46 のピッチで漕ぎ出し 500m で拓大 1/3 艇身離す。1000m で早大が詰め暫く並行したが早大のスパートが一向に効かず、逆にピッチの低い拓大の滑りがよく次第に差をつけてゴールした。

B　① 京大　　6’42”(平水換算：7’30”)　　独漕

C　① 日医大　6’30”(　〃　：7’15”)　　② 外語　　差 13”　　4 艇身

D　① 慶応　　6’26”(　〃　：7’02”)　　② 大倉　　半艇身

E　① 商大　　6’19”(　〃　：6’49”)　　② 同志社　差 22”　　7 艇身

F　① 帝大　　6’17”(　〃　：6’49”)　　② 日大　　差キャンバス

◈ 帝大スタート 44 で滑り出し良く 500mを過ぎて 1 艇身の差となったが、1000m後に日大は 37.5 の平均ピッチでキャンバスの差まで詰め 1200m付近で両艇波を被り難渋、ラスト 500mで日大良く頑張り 41 にピッチを上げて迫るも、結局キャンバスの差で惜敗した。

☆ 第一日資格予選で帝大、慶応、拓大、日医大が 2 勝し日大、商大、大倉、京大が 1 勝して勝ち残ることになったが、最も大きな収穫は、帝大が午前のレースで平水換算タイム 6 分 28 秒の好記録を出し、従来の日本記録 6 分 32 秒を遥かに抜いて日本のボートの飛躍を鮮やかに立証したことであった。日大も同じく平水換算 6 分 32 秒のタイ記録を以って商大を 2/3 艇身で破った。意外だったのは慶応で大倉に苦戦して辛くも勝ち、タイムも午前の記録平水換算 6 分 44 秒は余りにも不振であった。
午後の帝大対日大は、宛ら決勝レースの観を呈し前半帝大調子がよく 1 艇身近く抜いたのを日大良く追ってキャンバスの小差まで詰めたが、両艇の実力殆ど伯仲し再度の争覇レースこそ着目して期待される。
二日午前九時からの準々決勝組み合わせは抽選により、帝大対日医大、日大対慶応、大倉対京大、商大対拓大となり、帝大、日大、大倉、商大がが勝ち残るものと見られているが、早大を破った拓大の健闘が見ものであろう。(中川英造)

日大急角度に上昇
けふ帝大と決勝
オリムピック・エイト代表準決勝

日本漕艇協会主催オリンピック・エイト代表決定競漕第二日は、二日午前九時から尾久小台橋下流 2000mコースで前日の資格予選に勝ち残った 8 クルーにより準々決勝および準決勝戦を挙行、日大、帝大が勝ち残って決勝戦を行うことになった。
コンディション：東北東微風、斜逆風、順潮波なし

【準決勝】

A　① 日大　5’45”（平水換算：6’22”）　② 大倉　差 17”

◈ 日大のスタート 40、さらに 43 のピッチでぐんぐん飛び出し 500mで早くも半艇身の差とし、以後日大は悠々と差を拡大して勝つ。

B　① 帝大　5’50”（平水換算：6’25”）　② 拓大　差 12”

◈ 拓大のスタート一本目悪く、帝大直ちに抜き放し 500mで早くも半艇身リード、750m付近で帝大ちょっとコースを犯したが 1000mでは 2 艇身となり、拓大懸命の追漕を続けたが及ばず。

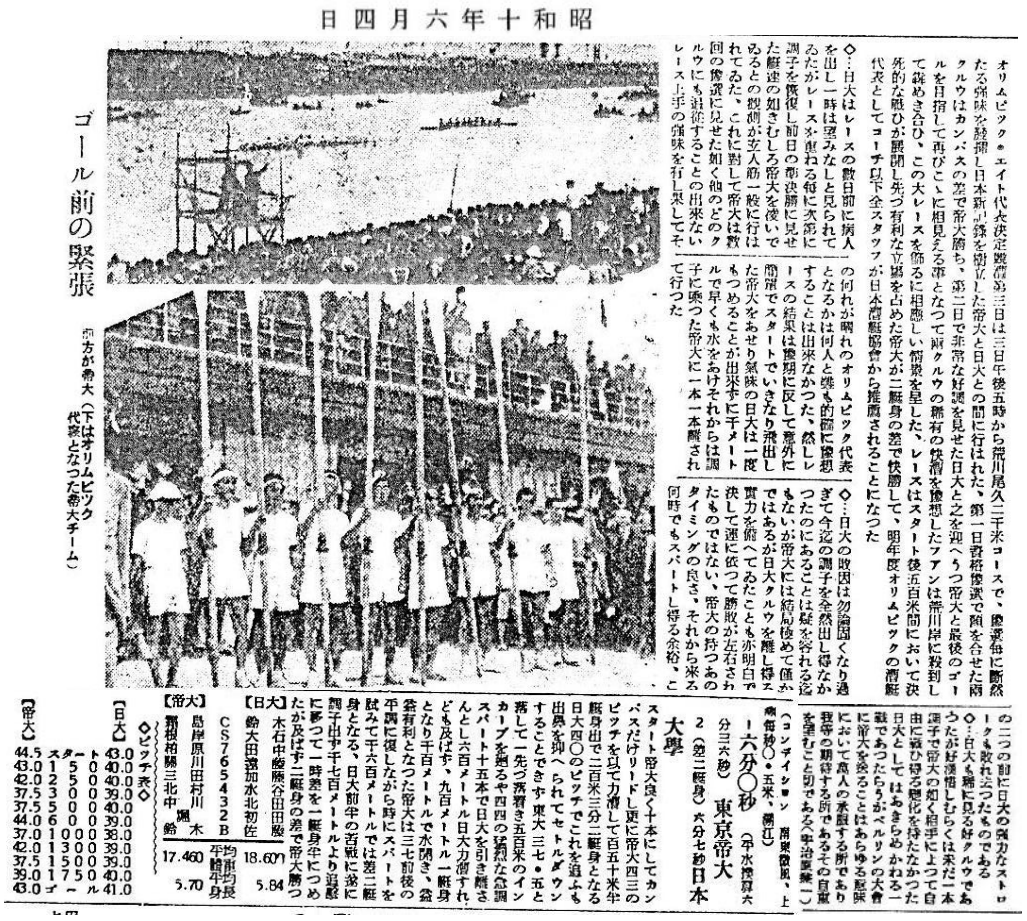
☆ 第二日に於いても帝大と日大は断然たる強味を示した。殊に午後の準決勝において、追い風を受けたとはいえ平水換算タイム日大 6 分 22 秒、帝大 6 分 25 秒は、前日の帝大新記録 6 分 28 秒をまたまた破ったものであった。第一日資格予選の記録では帝大は日大よりも 4 秒強く、午後は両クルーの顔合わせで帝大カンバスだけ勝ったが、第二日は準々決勝で日大が 1.5 秒差に肉薄し、準決勝では 3.5 秒優れている。勿論この比較記録は多少コンディションの差異があって絶対的な標準とはならないが、日大が急角度で調子の上昇を示していることは明らかに認められ、特に帝大に劣っていた前半が次第に強くなり、前日のレースで帝大に 1000mで 1 艇身遅れていたのが、恐らくこの日の調子では伯仲の形勢となったものと見られた。後半戦での日大の一本調子な粘り強さが帝大の急調なスパートと如何に対抗していくか、オ

リンピック代表の栄誉を賭けた帝大・日大の決勝戦こそ、まさに「竜虎相搏つ」の白熱戦を演ずることであろう。

準々決勝戦で商大が拓大をゴール前でカンバスだけリードしていながら、漕手の腹切りで敗れたことは不運であったが、帝大や日大と対抗する実力を持ちながらレースの弱さから先に日大に2/3艇身敗れ、また拓大に終始苦戦したことは、たとえその故障が起こらなかったとしても、優勝を期待することはできなかった。同様に慶応も、日大に実力で押し切られては術の施しようがなく敗れ去って、一般の漕力が向上した現在、ストロークの強さが結局物をいうことを痛感させられた。

拓大は二日間にわたり遺憾なく漕ぎ抜いたが、その善戦ぶりは賞するに足るものであった。

（中川 英造）



昭和十六年四月十日

オリムピック エイト代表

帝大派遣に決定

差二艇身 終始日大壓迫

オリムピック・エイト代表決定競漕第三日は三日午後五時から荒川尾久二千米コースで、慶応毎に断然たる強味を発揮し日本新記録を樹立した帝大と日大との間に行はれた、第一日資格豫選で顔を合せた両クルウはカンバスの差で帝大勝ち、第二日で非常な好調を見せた日大と之を迎へうつ帝大と最後のゴールを目指して再びこゝに相見える運となつて両クルウの稀有の快漕を豫想したファンは荒川岸に殺到して犇めき合ひ、この大レースを飾るに相應しい情景を呈した、レースはスタート後五百米間において決死的な戦ひが展開し先づ有利な立場を占めた帝大が二艇身の差で快勝して、明年度オリムピックの漕艇代表としてコーチ以下全スタッフが日本漕艇協會から推薦されることになつた

◇…日大はレースの數日前に病人を出し一時は望みなしと見られてゐたがレースを重ねる毎に次第に調子を恢復し前日の準決勝に見せた艇速の如きむしろ帝大を凌いでゐるとの觀側が玄人筋一般に行はれてゐた、これに對して帝大は數回の豫選に見せた如く他のどのクルウにも遜色することの出來ないレース上手の強味を有し果してその何れが晴れのオリムピック代表となるかは何人と雖も的確に豫想することは出來なかつた、然しレースの結果は豫期に反して意外に簡單でスタートでいきなり飛出した帝大をあせり氣味の日大は一度もつめることが出來ずに千メートルで早くも水をあけそれからは調子に乗つた帝大に一本一本離されて行つた

◇…日大の敗因は勿論調子くなり過ぎて今迄の調子を全然出し得なかつたのにあることは疑を容れる餘地もないが帝大には結局後れて僅かではあるが日大クルウを離し得た實力を備へてゐたことも亦明白で決して運に依つて勝敗が左右されたものではない、帝大の持つあのタイミングの良さ、それから來る何時でもスパートし得る余裕、この二つの前に日大の強力なストロークも敗れ去つたものである

◇…日大も無に見る好クルウであつたが好漕怠しむらくは未だ一本調子で帝大の如く相手によつて自由に喰ひ得る變化を持たなかつた日大としてはあきらめかねる一戦であつたらうがベルリンの大會において商大を除ることはあらゆる犠牲において商人の承認する所であり我帝の期待する所であるその自重を望むこと切切である（事治夏樹）

（コンディション 南東微風、上晴 每秒〇・五米、潮江）

一 六分〇秒（平水換算六分三六秒）東京帝大

2（第二艇身）六分七秒日本大學

スタート帝大良く十本にしてカンバスだけリードし更に帝大四三のピッチを以て力漕して百五十米半艇身出で二百米三分二艇身となる日大四〇のピッチでこれを追よも出鼻を抑へられてセットダウンすることできず東大三七・五と落して一先づ落着き五百米のインカーブを廻るや四四の猛烈な追調スパート十五本で日大を引き離さんとし六百メートル日大力漕すれども及ばず、九百メートル一艇身となり千百メートルで水閉き、益益有利となつた帝大は三七前後の平調に復しながら時にスパートを試みて千六百メートルでは第二艇身となる、日大前半の苦戦に後に四千出ず千七百メートルより追撃に移つて一時差を一艇身半につめたが及ばず二艇身の差で帝大勝つ

◇ピッチ表◇

	【帝大】	【日大】
44.5	スタート	43.0
43.0	1 5	40.0
42.0	2 5	40.0
37.5	3 5	39.0
37.5	5 5	40.0
44.0	6 0	39.0
37.0	10 0	38.0
42.0	13 0	39.0
37.5	15 0	39.0
39.0	17 5	40.0
43.0	ゴール	41.0

【帝大】		【日大】	
	舵		舵
那須	稍	木石	中
柏	勝	鈴大	慶
勝	三	田	應
三	北	滋	谷
北	中	加	田
中	堀	水	田
堀	鈴	北	敗
鈴	木	初	佐
CS	7	6	5	4	3	2	B
島	岸	原	川	田	村	川	田
平均	17.460						18.607
櫂平身長	5.70						5.84

ゴール前の緊張

（下方が帝大 （下はオリムピック代表となつた帝大チーム）

オリンピック・エイト代表決定競漕第三日は、三日午後五時から荒川尾久 2000mコースで開催された。勝ち上がったクルーは、予選ごとに断然たる強味を発揮し日本新記録を樹立した帝大と日大である。第一日資格予選で顔を合わせた両クルーはカンバスの差で帝大が勝ったが、第二日には日大が非常な好調を見せて肉薄しており、これを迎え撃つ帝大と最後のゴールを目指して、再びここに相見えることとなった。両クルーの希有の快漕を予想したファンは荒川岸に殺到して犇めき合い、この大レースを飾るに相応しい情景を呈した。

レースは両クルーがスタート後 500m間において決死的な戦いを展開し、先ず有利な立場を占めた帝大が二艇身の差で快勝して、明年度オリンピックの漕艇代表としてコーチ以下全スタッフが日本漕艇協会から推薦されることとなった。

代表決定戦

コンディション：南東微風、上潮 0.5m/ｓ、遡行

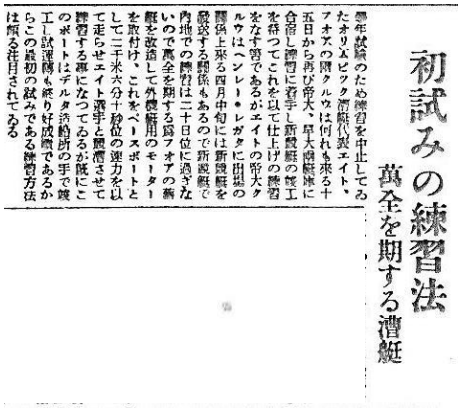
①東京帝大　　6’00”（平水換算：6’36”）　　② 日本大学　　6’07”　　2 艇身

スタートよく帝大が飛び出し 10 本にしてカンバスだけリード、さらに帝大 43 のピッチを以って力漕し 150mで半艇身先行、200mで 2/3 艇身となる。日大 40 のピッチでこれを追うも、出鼻を抑えられてセトルダウンすることができない。帝大は 37.5 に落して一先ず落ち着き、500mのカーブを回るや 44 の急調スパート 15 本で日大を引き離さんとし、600mで日大力漕すれども及ばず、900mで 1 艇身となり 1100mで水が開く。ますます有利となった帝大は、37 前後の平調に復しながら時にスパートを試み、1600mでは 2 艇身差となる。日大は前半の苦戦のため遂に調子がでず、1700mより追撃に移って一時差を 1 艇身半に詰めたが及ばず、2 艇身の差で帝大が勝利した。

☆日大はレースの数日前に病人を出し一時は望みなしと見られていたが、レースを重ねる毎に次第に調子を回復し前日の準決勝に見せた艇速の如き、むしろ帝大を凌いでいるとの観測が玄人筋一般に行われていた。これに対して帝大は、数回の予選で見せた如く他のどのクルーにも追従することのできないレース上手の強みを有しており、その何れが晴れのオリンピック代表となるかは、何人と言えども的確に予想することはできなかった。しかしレースの結果は予期に反して意外に簡単で、スタートでいきなり飛び出した帝大を焦り気味の日大は一度も詰めることができずに 1000mで早くも水が開き、それからは調子に乗った帝大に一本一本離されていった。

日大の敗因は、勿論固くなり過ぎて今までの調子を出し得なかったことに疑いを容れるまでもないが、帝大には極めて僅かではあるが日大クルーを離し得る実力を備えていたこともまた明白で、決して運によって勝敗が左右されたものではない。帝大の持つあのタイミングの良さ、それから来る何時でもスパートし得る余裕―この二つの前に日大の強力ストロークも敗れ去ったのである。

日大も稀に見る好クルーであったが、好漢惜しむらくは未だ一本調子で、帝大の如く相手によって自由に戦い得る変化を持たなかった。日大としては諦め切れない一戦であったろうが、ベルリンの大会に帝大を送ることはあらゆる意味において万人の承服するところであり、我らの期待するところである。その自重を望むこと切である。（宇治原 兼一）


初試みの練習法
萬全を期する漕艇
學年試驗のため練習を中止してゐたオリムピック漕艇代表エイト、フォアの兩クルーは何れも來る十五日から再び帝大、早大両艇庫に合宿し練習に着手し新鋭艇の竣工を待つてこれを以て仕上げの練習をなす筈であるがエイトの帝大クルーはヘンレー・レガッタに出場の關係上來る四月中旬には新鋭艇を發送する必要もあるので新鋭艇で内地での練習は二十日位に過ぎないので萬全を期する爲フォアの新艇を改造して外機艇用のモーターを取付け、これをペースボートとして二千米六分十秒位の速力を以て走らせエイト選手と競漕させて練習することになつてゐるが既にこのボートはデルタ造船所の手で竣工し試運轉も終り好成績であるからこの最初の試みである練習方法は頗る注目されてゐる

学年試験のため練習を中止していたオリンピック漕艇代表エイト、フォアの両クルーは、いずれも来る 15 日から再び帝大、早大両艇庫に合宿し練習に入る。そして新鋭艇の竣工を待ち、これを以って仕上げの練習を為す計画であるが、帝大クルーはヘンレー・レガッタに出場する関係で四月中旬には新鋭艇を発送する必要がある。そのため新鋭艇での内地での練習が 20 日位に限られるので、万全を期するため、フォアの旧艇を改造して外機艇用のモーターを取り付け、これをペースボートとして 2000m6 分 10 秒位の速力を以って走らせ、エイト選手と競漕させることとしている。既にこのボートはデルタ造船所の手で竣工し、試運転も終わり好成績であることから、この最初の試みである練習方法は頗る注目されている。

昭和十一年四月五日

帝室林野局特別の取計らいにて御下賜になった、木曾の御料林の檜材で建造した日本オリンピック漕艇代表選手の使用艇が竣工を告げたので、四日午後三時から向島帝大艇庫に命名ならびに進水式を盛大に行った。

式は向島の牛島神社の神官によって厳かに修祓が行われ、エイト艇に対しては長興東京帝大総長より『旭』と、フォア艇は日本漕艇協会長鹽澤博士により『富士』と命名された。続いて日本漕艇協会長の挨拶、井口造船委員長の設計報告、さらに平生文相の祝辞(岩原体育課長代読)、大日本体育協会今村顧問の祝辞があり、関係者・来賓一同が玉串を捧げ、直ちに進水の式を行った。

エイト代表の帝大クルー、フォア代表の早大クルーが乗り込み、オール捌きも鮮やかに、新艇は軽々と墨水の上を滑り出した。

昭和十一年三月十日

漕艇オリンピック代表となったエイト帝大クルーおよびフォア早大クルーは、去る2月15日より学年試験のため合宿練習を休止していたが、フォアはいよいよ今3月15日より、エイトは20日より再び練習を開始して最後の仕上げを行うこととなった。エイトは7月初旬英国で行われるヘンレー・レガッタに出場するため、5月下旬に日本を出発する予定となっており、フォアは6月20日頃の出発となる予定であるからエイトは2か月、フォアは3か月のわが国での練習期間を余すのみとなった。

エイトの帝大クルーは、昨年6月のオリンピック代表決定戦以来そのまま合宿練習を継続し、フォア、フィックス、遠漕等による基本練習と体力の強化を行う傍ら、漕法上からは身体、手脚等の調和を一層緊密に無駄なきものとなしつつ、脚のドライブ、身体のスピードを増して櫂先のスピードを強めることに精進していた。その結果としてピッチも2枚ほど上がったと瀬田コーチも言っており、少なくとも38で破綻のないペースを保ち得ることは認められ、スパートは45前後、10本力漕では55から60の猛ピッチを引いている。平均体重22～23貫の外国クルーに18貫に足りないわがクルーが対抗するためには、高いピッチをより有効に狙うのは当然であり、なお今後の練習によってコンスタントピッチは40までには引き上げられるものと見られている。

またスタートダッシュで外国クルーをリードすることは、日本の作戦としては絶対的に必要であろうと思われ、従って帝大クルーが現在試みている猛ダッシュの練習は、さらに徹底的に行ってもらいたいと考える。

またグリュナウ・コースの波を考慮に入れると、同クルーがフォワードにおいてバック・スプラッシュの危険性が見られることは、大いに警戒を要することであろう。

昨秋のインター・カレッジに際し、同クルーが公式試漕を行い所期の好記録を得られなかったことは諸種の事情に阻まれたものであったが、最近1000mで3分30秒(逆風逆潮)のタイムを得たと聞く。来るべき練

習期間中において、少なくとも数回のレースコースを引いて練習の成果を確かめ、万全の準備を為す必要があろう。最近外機艇用モーターを取り付けたペースボートが考案され建造されたのも、実力測定と戦闘力養成を目的とするものとして、その活用に大きな期待がかけられている。　（中川 英造）

オリムピック漕艇代表　最後の練習に寄する希望　（下）　中川 英造

実力測定に當れ

長所の蔭に此の危惧

フォアの早大クルーは昨秋十一月のオリムピックの動機に代表としてえらばれ、昨年中はタブペアとフィックスに依つて基礎練習をおひ選手のサイドを変へたりなどしてウオーターマン・シップの養成に専念し、正月の銚子遠漕後一月中旬より二月十五日までフォアによつて練習した。今後の練習について高島コーチの予定によれば、出発直前の六月中旬までの三か月を三回に分かち、各一か月を単位として調子の訓練を行ふことになつてゐる。

◇

オリムピックの入賞のチャンスはまづフォアから、といふ希望がかけられ同クルーに対する期待は大きい。クルーの長所と目されるのは腰と脚との粘りからくるストロークの強い引きと整調と三番のリズミカルな好調等が挙げられるが、ストロークの強い引きの反面ブレードの浮く危険が伴い、好調に頼りすぎるとコンスタントなスピードが疎かになる恐れが生ずる。

ピッチは平調40を目指しスタートは47～48となるが、去る選考レースの経験から見て恐らくこれは実現し得るだろう。同クルーとしてもエイトと同じく余す練習期間が少ないことであることから、レース・コースを機会ある毎に引いて実力の測定を試みつつ練習を進めるべきで、決定戦での最高記録平水7分12秒から7分フラットに向かって猛進せよと望みたい。放水路辺の良いコンディションで、平水7分フラットで2000mを引き切るに至って、初めてオリムピック入賞の確信を持ち得るとしなくてはなるまい。

なおエイトおよびフォアの使用艇については、既報の如く造艇委員会において設計決定を終え近く竣工の運びとなる。エイトは昨年末建造の試作艇を基に長さ50フィート、幅23.5インチ、深さ9インチ3/4となり、艇名も『旭』と命名せられることになった。この艇も欧米各国のエイトに比して、なお8～10フィートも短く、フォアは長さ42フィート、幅18インチ7/8、深さ8.5インチと決定、これは幅において2インチ近く狭い。これらの艇は、身体の小さい日本人が用いるものとして極度にその浸水面積を小にして水の抵抗を少なくしたもので、用材たる木曾檜（従来のスパニッシュ・シダーに比して吸水量は約半分）ならびに艇身・舵・シート等の特異な諸構造とともに、世界の造艇界に断然異彩を放つものとなったことは、日本の誇りとして誠に喜ばしいことである。　（中川 英造）

エイト代表 壮途に就く

オリンピックを目指す帝大エイトクルーは、18日午後3時、日本漕艇協会や帝大学友会多数に見送られて東京駅を出発した。1年半苦行を続けてきた向島の艇庫に別れを告げ、正午明治神宮に戦勝祈願、さらに宮城遥拝後晴れの首途に就いたが、一行は19日神戸を出帆してハルビン経由で6月2日にベルリンに入り、直ちにロンドンに向かい世界的ボートレース「ヘンレー・レガッタ」に参加する予定である。

【エイト代表の渡欧日程】

5 月 18 日	15：00	東京駅　発	（特急：富士号）
		神戸　着	
19〃	12:00	神戸港　発	（大阪商船：吉林丸）
21〃	朝	大連　着	満鉄漕艇部歓迎会出席　（1 泊）
22〃	9:00	同　発	（満鉄：アジア号）
22〃	22:00	ハルビン着	（1 泊）
23〃	20:20	同　発	（国際列車）
24〃	12:00	満州里　着	（1 泊）
25〃	15:47	同　発	
31〃	20:30	モスクワ着	（1 泊）
6 月　1〃	22:15	同　発	
3〃	22:22	ベルリン着	オリンピック・コース視察　（1 泊）
4〃	20:35	同　発	（飛行機）
5〃	15:20	ロンドン着	ヘンレーに分宿し練習

【ハルビン 24 日発】

オリンピック漕艇代表エイト東京帝大クルー一行東監督、瀬田コーチ以下選手 10 名は、23 日 22:30 アジア号でハルビン着、1 泊の上 24 日 20:20 発国際列車で満州里を経て一路シベリヤを通過、欧州に向かった。

【ベルリン特派員 3 日発】

ボート選手一行は 3 日朝 8 時、フリードリッヒ駅へ無事到着、在留日本人の出迎えを受けてホテル・ルッシェホッフに入った。一行は 3 日午後グリュナウのコースを視察し、5 日朝テンプルホフ飛行場から飛行機でロンドンに向かう。東・瀬田両氏は交々語る。

「シベリヤでは 36 度の暑さで選手も弱ったようだが、モスクワに着いてから元気になった。シベリヤ鉄道の列車内では普通のバック台の練習は止め、ボートを漕ぐ時に使わない方の筋肉を動かす体操をやったり、停車駅では駆け足をやったりした」

【ロンドン 3 日発同盟】

わがオリンピック代表漕艇選手団は、ベルリンから 5 日に飛行機でロンドンへ来着、9 日には日本人倶楽部で開催される歓迎晩餐会に臨む予定である。また同クルーは「ヘンレー・レガッタ」に参加するとともに、6 月 20 日テームズ・コースで挙行される「マロー・グランド・チャレンジ・カップ」レースにも出場することとなり、3 日この参加申し込みを終了した。

同レースは、英国においてはヘンレー・レガッタに次ぐ大レースで、事実ヘンレーに出場する総てのクルーは争ってマロー・レガッタに出場し､恰もヘンレー・レガッタ同様の観がある大レースである。

なおこの両レースに使用すべく日本から送られたエイト艇『旭』号は、3 日午後ロンドンに陸揚げされ、直ちに八木氏が付添ってヘンレーに向けて発送された。

昭和十年一月六日

我代表クルー新記録

強豪劍橋をも一蹴

初の國際制覇成る

オリムピック前哨競漕

準決勝經過

マロー・レガッタ

【ロンドン 20 日発同盟】

わがオリンピック漕艇代表軍にとって、最初の国際レースとして期待されているマロー・レガッタは、いよいよ 20 日テームズ川上流 1,540 ヤードのコースで挙行された。この日は珍しく快晴で絶好のレース日和、わが選手団の意気大いに上がるものがあった。

わが代表軍の出漕レースは午後零時半にスタート、日本クルーはすこぶる好調な滑り出しでピッチを上げ、早くも強敵ケンブリッジをリードし、ケンブリッジ・クルーの追漕を退け、そのまま終始頑張り通し遂にこれを 3/4 艇身離し 4 分 12 秒のタイムで快勝した。

次いで準決勝戦、わがオリンピック代表クルーとロンドン・ローイングクラブ・クルーとのレースは午後 3 時にスタート、わが代表クルーはなお快調を続け、またも 3/4 艇身の差をつけ 4 分 14 秒のタイムで快勝した。

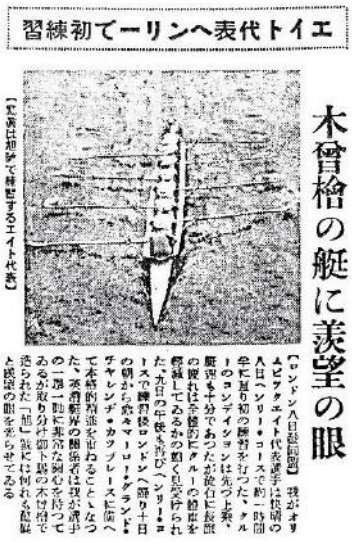
決勝戦は午後 5 時 20 分から、わが代表クルーとテームズ・ローイングクラブとの間で戦われ、わが代表クルーは 4 分 09 秒というコース新記録の最高タイムで 1 艇身半の差をつけ、見事初の国際レースに優勝、マロー・グランドチャレンジ・カップを獲得した。

【準決勝戦経過】

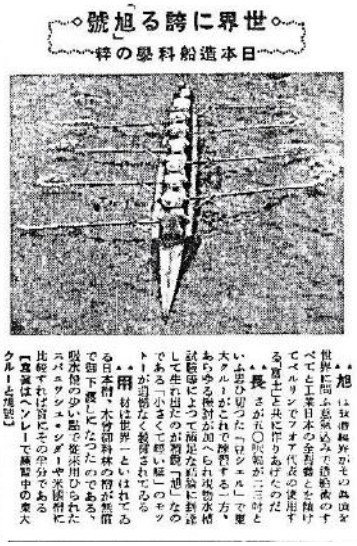
準決勝戦は、スタート間際の天候激変で、雷雨の中に開始した。

スタート 6 本でロンドン・クルーが一寸出てそのままリードを続け、最初のカーブで日本クルーは 1/3 艇身遅れ、コース半ばでその差半艇身と開いた。1000 ヤード付近のインカーブをわが艇は巧みに操舵してたちまち並行、さらに猛然とスパートに出て追漕し、3/4 艇身の差でわが代表クルーは鮮やかに逃げ込んだ。

雨中逆風の悪コンディションのため、記録はケンブリッジとの第一回戦より悪かったが、従来のマロー・レガッタの記録を 16 秒も短縮する快挙だった。


エイト代表チーム初練習

木曾檜の艇に羨望の眼


世界に誇る「旭」號

日本の學科船造

木曾檜の艇に羨望の眼

【ロンドン 8 日発同盟】わがオリンピック・エイト代表選手は、快晴の 8 日ヘンレーコースで約 1 時間半にわたり初の練習を行った。クルーのコンディションはまず上々、艇速も十分であったが、さすがに長旅の疲れは全体的にクルーの体重を軽減しているかの如く見受けられた。9 日の午後も再びヘンレーコースで練習した後ロンドンへ帰り、10 日の朝からマロー・グランドチャレンジカップレースに備えて本格的精進を重ねることとなった。英国漕艇界の関係者はわが選手の一挙一動に非常な関心を持っているが、取分けご下賜の木曾檜で造られた「旭」号には何れも驚嘆と羨望の眼を光らせている。

世界に誇る「旭号」

「旭」は、わが漕艇界がその真価を世界に問う意気込みで、造船術のすべてと工業日本の全智嚢とを傾けて、ベルリンでフォア代表の使用する「富士」と共に作り上げたのである。長さが 50 フィート、幅が 23 インチという思い切った「豆シェル」で、東大クルーがこれで練習する一方あらゆる検討が加えられ、現物水槽試験等によって満足な結論に到達して生れ出たのが、精鋭「旭」なのである。

「小さくて軽い艇」のモットーが遺憾なく発揮されている。用材は世界一と言われている日本檜、木曾御料林の檜が無償で御下渡しになったのである。吸水量の少ない点で、従来用いられたスパニッシュ・シダーや米国檜に比較すれば、実にその半分である。

ヘンレー・レガッタ

昭和十六年一月十七日

わがクルー外交
英紙が絶讃の辭
"いま一息でヘンレー優勝"

練習中の我漕艇選手 ロンドン・ローイング倶楽部の

【ロンドン 25 日発同盟】

マロー・レガッタにおいて優勝の栄を手にした日本代表エイト・クルーは、ヘンレー・レガッタへの出場を前に目下全英の注目の的となり、在留邦人も非常に鼻を高くしている。我がクルーのスポーツマン・ライクな態度は、紳士国イギリスに多大の好印象を与えており、300 万の読者を持つ大新聞デイリー・エキスプレス紙も「日本はクルーと同数の外交官を送ったよりも、いっそう国際親善の実を挙げている」と述べ、さらに 25 日の同紙の社説には、次の如く日本クルーを評している。

「“日本クルーはヘンレー・レガッタでは勝算はない”と自分自身言っている。しかしテームズ川ヘンレー付近に素晴らしい小さなエイトシェルが物凄い急ピッチで練習するのを見れば、マロー・レガッタにおけると同様、ヘンレーでも他のクルーを斥けて優勝するのではなかろうかと、誰しも感じさせられるであろう。
彼等の艇は、イギリスにおけるものと比較してより短く、より軽く、舳から舵までが文字通り流線形を成しており、艇の進行もピッチングがなくスムーズに水面を滑っていくし、我々が学んだすべての漕法を打破する急ピッチを持っている。マローでなした 52 のピッチよりも、もう 10 ストローク速い 62 を引くことが出来たら、ヘンレーにおける彼等の勝利は確実と言ってよかろう。」

昭和十年一月二十六日

エイト代表勇躍ヘンレーへ
瞠若たり英漕艇界
驚異の日本漕法
艇にまで探索の眼

【ロンドン特電廿一日発】

二十日のマロー・レカッタにおけるわがオリムピック・エイト代表東大クルーの水際立った勝利は今迄の如くイギリスの関係者をして七月一日より四日間に亘る英国最大のレース、ヘンレー・レカッタに参加する日本選手の活躍を重視し日本クルー独特の漕法やボートの構造そのものにまで深甚な探索の眼を向けるようになった。殊に横を向いたオールの先きを見て漕ぐ点とオールが水から出て初めて脚を延ばす日本選手のレッグ・ワークとは従来イギリスでは排斥されたところであったから異常なセンセーションを惹起している

【驚嘆は整エイト代表】

○…イギリス人のエキスパートは、フェザー・ウェイトがヘビー・ウェイトに立向う拳闘試合に比較し勝ちだった。しかしマロー・レカッタにおける整然たる漕法と決勝前のピッチの上げ下げが自由自在なのも驚嘆の的となりヘンレー・レガッタにおいても順当にいけば日本選手のファイナル・レース出場は間違いないと優勝候補に挙げられるようになった

○…彼等の見るところではマローにおけるイギリス選手はヘンレーの時のように十日も前から現地で毎日規則正しく練習をやらなかったし、また当日はイギリスに希な蒸暑い天候で、イギリス選手として十分の成績を挙げ得なかった。しかしヘンレー・レガッタまでは未だ二週間の日時があるからその間に実力向上の余地が十分にあることと、マローに反してヘンレーは逆流を漕ぎしかも長距離だから、体重の軽い日本選手は不利であろうとの意見を持っている

○…またマローでは日本クルーの舵の引き方が大変ラフで曲線をなした点が注目され、ヘンレー・コースは一直線で両岸に棒杭が打ってあるからあんな舵の引き方ではデリケートな難関に逢着し意外の破綻を来す恐れなしとせぬとの意見を漏らしているのは注目に値するものである

○…同レースに参加するのはスキス・ロンドン・ローイングクラブ、ツイムズローイングクラブ、ケムブリッヂ連合クルー、リヤンダークラブ等である

スタート巧妙
ロンドン・タイムス評

【ロンドン二十二日発同盟】 マロー・レガッタにおける日本クルーの目覚しい活躍ぶりは旬日の後に迫ったヘンレー大競漕の従来の予想を全く覆してしまった感があり、ロンドンタイムス、モーニングポスト紙等は、挙って日本クルーに対する批評を掲載した。紙は日本クルーの著明なスタートは巧妙なるものであると賛辞を呈すると共に他方ケムブリッヂ連合クルーの出発は不巧であるとし、また当日はイギリスに希な蒸暑い天候でイギリス選手として十分の成績を挙げ得なかった。しかしヘンレー・レガッタまでは未だ二週間の日時があるからその間に実力向上の余地が十分にあることと、マローに反してヘンレーは逆流を漕ぎしかも長距離だから、体重の軽い日本選手は不利であろうとの意見を持っている。また舵の引き方が大変ラフで曲線をなした点が注目され、ヘンレー・コースは一直線で両岸に棒杭が打ってあるから、あんな舵の引き方ではデリケートな難関に逢着し意外の破綻を来す恐れなしとせぬとの意見を漏らしているのは注目に値するものである。同レースに参加するのは、スイス、ロンドン・ローイングクラブ、テームズ・ローイングクラブ、ケンブリッジ連合クルー、リアンダークラブ等である。

【ロンドン特電 21 日発】

20 日のマロー・レガッタにおけるわがオリンピック・エイト代表東大クルーの水際立った勝利は、今さらの如くイギリスの関係者をして、7 月 1 日より 4 日間にわたる英国最大のレース、ヘンレー・レガッタに参加する日本選手の活躍を重要視し、日本クルー独特の漕法やボートの構造そのものにまで深甚な探索の目を向けるようになった。

殊に横を向いたオールの先を見て漕ぐ点と、オールが水から出て初めて脚を延ばす日本選手のレッグ・ワークとは、従来イギリスでは排斥されたところであったから、異常なセンセーションを惹起している。

イギリス人のエキスパートは、従来日本選手の出漕をもって「フェザー・ウェイトがヘビー・ウェイトに立ち向かう拳闘試合」に比較し勝ちだった。しかしマロー・レガッタにおける整然たる漕法と決勝前のピッチの上げぶりに驚嘆の眼を見張り、特にファイナルレースにおけるピッチ 52 は、英国クルーとしては殆ど不可能として舌を巻いている。また整調(根岸君)が終始沈着を保ち科学的な作戦を以って漕ぎ、クルー全体が全く一心同体となってただ一人の人が漕いでいる如く、ピッチの上げ下げが自由自在なのも驚嘆の的となっている。ヘンレー・レガッタにおいても、順当にいけば日本クルーのファイナルレースへの進出は間違いないと、優勝候補に挙げられるようになった。

彼等の見るところでは、マローにおけるイギリス選手は、ヘンレーの時のように 10 日も前から現地で毎日規則正しく練習をやらなかったし、また当日はイギリスに希な蒸暑い天候で、イギリス選手として十分の成績を挙げ得なかった。しかしヘンレー・レガッタまでは未だ 2 週間の日時があるから、その間に実力向上の余地が十分にあることと、マローに反してヘンレーは逆流を漕ぎしかも長距離だから、体重の軽い日本選手は不利であろうとの意見を持っている。

またマローでは、日本の舵の引き方が大変ラフで曲線をなした点が注目され、ヘンレー・コースは一直線で両岸に棒杭が打ってあるから、あんな舵の引き方ではデリケートな難関に逢着し、意外な破綻を来す恐れなしとせぬとの意見を漏らしているのは注目に値するものである。

同レースに参加するのは、スイス、ロンドン・ローイングクラブ、テームズ・ローイングクラブ、ケンブリッジ連合クルー、リアンダークラブ等である。

ロンドン・タイムズ評

【ロンドン 22 日発同盟】 マロー・レガッタにおける日本クルーの目覚ましい活躍ぶりは、旬日後に迫ったヘンレー大競漕の従来の予想を全く覆してしまった感があり、ロンドンタイムズ、モーニングポスト紙等は、挙って日本クルーに対する批評を掲載した。

即ちタイムス紙は『日本クルーの素晴らしいスタートは、イギリス一流レースでも曾て見ないほど巧妙なものである』と称え、またモーニングポスト紙はさらに突っ込んで、『マロー・レガッタに比しヘンレー・コースは長いから、これを如何にこなすかが勝敗の分岐点である。しかしなお 10 日余りもあるから、その間の練習で恐らく見事な手際を示すに違いあるまい』と論じている。

昭和十一年六月二十八日

ールク大東は形花
謎は専門家七分五割七 評手土
る迫タッガレ・ーレン〜

【ロンドン特電 28 日発】

ヘンレー・レガッタの組合せ抽選会も完了し、今は 2 日後の大競漕を待つばかりとなった。
今年は出漕クルーの顔ぶれや、天気や川の条件など理想的と言われ、数年来曾て見ない人気を呼んで盛大に挙行されるものと期待されている。今からヘンレーの川沿いに見物人の垣をなし、両岸の家屋、空き地などは皆観覧席として借り切られてしまった。

しかもヘンレー・レガッタにおける一番の花形は、断然マロー・レガッタ以来全英を沸かせているわがオリンピック代表東大クルーで、その一挙手一投足は各方面から最も興味と探索の目を向けられている。28 日朝の日曜各紙は、昨日の抽選の結果を報道するとともに、筆を揃えて東大クルーの驚嘆すべき技量、特に素晴らしく速いピッチと一心同体の如き整然たる漕法に敬意を表し、英国を代表するリアンダーと外国クルーを代表する東大との決勝戦を予想して血を沸かせており、土手評は東大の勝利を七分五分と見積もっている。尤も専門家たちは、東大クルーの実力に対しては「神秘な謎である」との意向を漏らしている。

「俄かに東大の優勝を断定するは尚早なり」となし、彼等の意見によれば「東大クルーの漕力真相は不明である。マローの決勝では 1 分に 52 まで出し、最近のヘンレーにおける試漕では 12 秒に 12 のピッチを出した。しかし問題は軽量ボートと体重の軽い選手が、長距離・遡行に対しどれだけ成功しうるか、殊に試合当日にもし風が出たり波立ったりした場合にどうなるかの点にある。何となれば、先日ヘンレーを試漕した時の東大クルーの記録は 7 分 1 秒で、フィニッシュにおいて選手たちはすっかり疲れ切り、この時のピッチは僅か 34 に過ぎなかった」と指摘している。

全英興味の心中
勝つか我クルー
念あす大競漕
問題は風向の順逆

【ロンドン特電 30 日発】

目指すヘンレー・レガッタもあと一日となり、ヘンレー川のレースコースには一直線に棒杭を立てて縄を張り、川の流れを調節する設備も完備し、岸には選手やボート格納のテントや観覧席等美しく初夏の緑の木の間に映え、川べりには物見高い見物人やボート関係者等が集まって前景気を付けている。日本選手は相変わらず朝夕二回規則正しい練習をやっているが、レースが近づくにつれてますます人気の中心となり、専門家は何れもハイピッチの謎を話題にしている。その上、日本選手の如何にも学生らしい謙虚な挙動や常に微笑を忘れぬ態度は当地人士の賞賛を深め、是非とも日本選手を優勝させたいと、熱心な助力や忠告を与えるありさまである。

30 日チューリッヒ選手の到着を待って、ヘンレー・レガッタ・グランドチャレンジ出漕ク

ルー九つ全部揃ったわけであるが、独りチューリッヒのみは未だ姿を現さずその実力は疑問とされているが、昨年より幾分劣るとの話である。

チューリッヒは練習中事故のため落伍したが、その技量は最も優れていたもので、もし今年のクルーが昨年同様の腕前ならば、準決勝における日本対チューリッヒの一戦こそ最も興味ある試合で、これが事実上の決勝戦の内容を有するであろうと言われている。

A組においては、マローで東大に敗れたロンドン・ローイングクラブがその後の二週間の練習で大いに向上して速力を増し、強敵と言われるリアンダークルーとの準決勝が見もので、ロンドンに勝ち味があると見られるに至った。もしロンドンと東大の決勝となれば、東大も楽観は許されまい。もしケンブリッジ・オックスフォード選手を選り抜いたリアンダーが日本と決勝することとなれば、勝負は大体東大のものとなるであろうとの専門家の予想が専らである。

ただしボート・レースには、その日の各種のコンディション次第で結果は予測を許さず、特に軽い艇をもって速いピッチを有利とする東大にとって、試合当日向かい風が強く吹く場合は最も不利であることは自他ともに認めている点である。

【ヘンレー～本社 国際電話】

昭和十年一月七日

スポーツ

力漕！死力を盡し
祖國のため戰はん
コースの長さ無影響

皆元氣一杯
ヘンレー～本社 國際電話

瀬田コーチ

待望のヘンレー・レガッタを控えて 30 日午後 5 時(ロンドン午前 9 時)、本社は代表コーチ瀬田氏ならびにマロー・レガッタの英雄・整調の根岸選手をヘンレー・シェアウッドの合宿所に呼び出して、日本が期待するヘンレー・レガッタの予想を聞いてみた。瀬田氏はこれから最後の練習に出かけるというあわただしい中に、ボート代表の素晴らしい元気を語り土手評あるいは新聞評で伝わる種々の予想の中から代表一行の飾り気のない真実の姿を見せて、最後まで頑張ると力強い気概を示していた。しかし根岸君は中途空電のため 30 分近く邪魔され、練習時間に追われて電話口に出られず、元気なその声を聴くを得なかったのは残念であった。

本社：マロー・レガッタではおめでとう。当方でも非常なセンセーションを起こして、ヘンレーの結果を待ち焦がれています。マローでの初陣の感想とヘンレーの予想を聞かせてください。

瀬田：マローではまだ向こうが練習不足だったので、此方は運がよかったように思います。その後向こうでは皆腕を上げていますから、ヘンレーでは苦戦だろうと思っています。ここでは皆練習が進んだので易々とはいかないだろうと思います。

本社：選手のコンディションはどうですか？

瀬田：メンバーには全く故障はなく、皆元気一杯です。

本社：レース前の練習状況は、大体どんな様子ですか？

瀬田：選手も元気、練習予定も順調に進んでおり、先ず申し分のない戦前のコンディションです。

本社：ヘンレーの組み合わせも決まっていますが、これに対する予想はどうですか？

瀬田：予想はなかなか簡単にはできません。Ａ組には強いチームがおりますが、我々のＢ組には割合に強くないのが集まっています。日本クルーが最初に当たるのはクエンティンです。これは弱い方ですがその次に当たるのは相当強い相手です。

本社：次に当たるチューリッヒとはどうです？

瀬田：チューリッヒは相当なものと思いますが、未だ川へは現れていませんので判りません。最近の様子を聞いてみますと、あまり良くないようです。

本社：そうすると決勝に出る可能性が多分にある訳ですね。

瀬田：ジーサブがなかなか強いようです。

本社：ジーサブに対してはどうですか？

瀬田：いい勝負です。接戦となり、これを破るのは一苦労だと思います。

本社：それに勝てばＡ組の勝者と当たる訳ですが、Ａ組ではどのクルーが残るでしょうか？

瀬田：やはりロンドンか、リアンダーでしょうね。

本社：レースコースはもう引いてみましたか？

瀬田：引いてみましたが、コースに馴れていないためか、あまり良いタイムが出ず、今のところでは他のクルーに少し劣っているように思います。

本社：コースが長いという点はどうですか？（コース：１マイル 550 ヤード，2112m）

瀬田：コースの長さは、あまり影響しないだろうと思います。他のクルーもその後の練習によって、短距離でも相当の艇速を持ってきました。それと同様に我々もその程度の進歩を長距離レースに示していますから、距離の長短は問題ではないと思います。

本社：どのくらいのピッチでレースを行うつもりですか？

瀬田：コンスタントは 37～38、場合によっては 36 位に下げ、余裕を持って戦いたいと思います。

本社：ではスパートは、60 位まで上げますか？

瀬田：練習の時には引きますが、レースにはそれ程のハイピッチは使いません。まず精々 50 か 52～53 です。レースコースは両側に観覧船が並んで非常に狭く感じ勝手が違いますが、観衆の規律がよいので邪魔にはなりません。

本社：そのコースの点について、千葉四郎氏から伝言がありました。「ボートの上から見ると選手たちには非常に狭く思われるかもしれないが、航空写真で見ると２艘レースでは左右に大分余裕があり気に掛けるほどのことではないから、この点を選手によく認識させてくれ」とのことでした。

瀬田：よく分かりました。我々はレースを前にして、祖国のために死力を尽くして戦う決心です。選手代表の根岸主将も電話口に出て、日本の皆さんにこの気持ちをお伝えする積りで待っておりましたが、練習時間が来て一足違いで出かけて行きましたので、私が代ってその旨を申し上げます。

【ヘンレー特派員 2 日発】

ヘンレー・レガッタのグランド・チャレンジ盃第二日第四組に出場したわが東大クルーは、午後零時半見事な発艇ぶりでスタート、遡行 2112m コースを見事漕破し、クエンティンを 2 艇身の差を以って破り悠々快勝した。東大クルーは颯爽として些かも疲労の色を見せず、両岸を埋める大観衆の歓呼と拍手を浴びた。

昭和七年一十三月

初陣のヘンレーに
東大クルー快勝
悠々二艇身を離し觀衆歡呼
颯爽疲れの色なし

試合經過

戦端は定刻より少し遅れてスイスと英国の勝負で開かれ、チューリッヒ・クルー(スイス)は易々ジーサス・クルー(英国)を破り、次のロンドン対リアンダーは半艇身の差でリアンダー、優勝候補の貫録を示した。

タイム7分33秒はチューリッヒの7分27秒とともに、向かい風強き今日の記録としては絶好のもので、日本側にとっては警戒を要するものと見られる。

東大とクエンティンは、号砲とともにクエンティン第一コース、東大第二コースで一斉にスタートを切った。雨降り始め風強くコンディションは次第に悪くなったが、わが東大クルーは予想通り快勝し準決勝に進むこととなった。

A組	① チューリッヒ	7’27”	② ジーサス	大差
B組	① リアンダー	7’33”	② ロンドン・ローイング	半艇身
C組	① ボストン	7’38”	② ペンブローク	1艇身1/4
D組	① 東大	7’41”	② クエンティン	2艇身

【ヘンレー特電2日発】　ヘンレー・レガッタ第二日は前日に引き続き薄曇りの天候、風やや強く時々細雨至りてはまた太陽現れるという天気にも拘らず、早朝から川面といい両岸の深緑の芝生といい、見物の男女を以って埋め色とりどりの花畑を築いた。

しかし今日は問題の日本東大クルーが初めてヘンレーに出漕するので、その評判の妙技を見物したいのと、イギリス・ボート界の花形ロンドン・ローイングとリアンダーの勝負があるのとが二重に人気を呼んだのだ。日本選手は今朝も約1時間、川上で瀬田コーチの指導の下に人目を避けて軽く最後の練習を終わり、東監督は岸に立って速度計を見つめながら最後の作戦を整えた。練習の終わった選手たちは調子極めて良好、自信に満ちて晴れ晴れとしていた。ゴール前の観覧席には、12時前頃から大挙ロンドンよりバスを仕立てて押し寄せた邦人有志男女数十名の姿で一角をなし、わが遠征選手の今日の壮途を盛んにし、東大クルー快勝の瞬間どっと上がる歓呼の声がテームズを圧した。

【試合経過】

【ヘンレー特電2日発】　東大対クエンティンの競漕は、クエンティンが第一コース、東大が第二コースで途中まで雨降り左前方からの風強く、東大側に不利なコンディションであったが、東大はスタート良く 1/4 艇身リードし30ストロークでは半艇身抜いてピッチを下げるや、クエンティンはスパートして迫り第一クオーターで東大に勝ち越さんとしたが東大もこれに並行して進み、第二クオーターにおいて東大ピッチ52を出してスパートするや忽ちクエンティンを1艇身抜いてしまい、そこで再びピッチを40に落として1艇身の優差を持続、ラストスパートのピッチ55で2艇身の差を以って易々クエンティンを破ったが、7分41秒も彼等としてはベストではなく、実力を出し切っているとは言えない。

日本選手の堂々たる勝利は、観衆の割れるが如き拍手と歓呼の声で迎えられた。

【本社～ヘンレー国際電話】

テームズの花形東大クルーは、われらの予想を裏切らずに、その第一戦でクエンティン・ローイング・クルーに飛沫を浴びせてしまった。

本社は幸先の良い東大クルーに「おめでとう」を浴びせようと、2 日夜早速国際電話をつないだ。選手達が漸く合宿に引き上げるところだった。

喜びの瀬田コーチがまず楽勝を伝えれば、母国への声を独占するに忍びぬとばかり主将根岸君に電話を渡し、彼も明日の必勝を約束したのであった。

本社：もしもし瀬田さんですか？おめでとうございました。

瀬田：えゝどうも有難うございます。今レースが終わったところです。

本社：いま瀬田さんはどちらですか？

瀬田：合宿に引き揚げたところです。

本社：選手たちはどうしていますか？

瀬田：えゝみなここで寝転んでダベっていますよ。

本社：ひとつ今日の快勝の模様を聞かせてください。

瀬田：勝った模様ですか‥‥今日のレースは丁度 12 時にやりましたが、非常に天気が悪くて逆風が強く雨もひどく降りました。顔に当たると痛いほどの雨滴でした。

本社：それは大変でしたねぇ‥‥それで今日は初めっから抜いて行ったのですか？

瀬田：スタートからどんどん抜き、ハーフでは 1/4 艇身位水を開けました。そのまま差を増してゴールでは 2 艇身位に開きました。

本社：全くの大勝ですね。他の試合はどうでした？

瀬田：ロンドン・ローイングクラブとリアンダー・クラブとのレースは、我々日本人が勝つと思っていたロンドン・ローイングが負けてリアンダーがちょっと抜いたのは、我々の予想を裏切りました。一体に英国の学生クルーは、ジーサス・カレッジにしてもペンブローク・カレッジにしても、非常にピッチを上げていましたが逆風に禍されてあまり良くなく、ボストン・ローイングクラブやスイスのチューリッヒに負けました。

本社：それで明日の相手はチューリッヒですね‥‥どうですか、勝敗の予想は？

瀬田：スイスはなかなか強いので、先の予断は許しませんね。それでもいつものような積りでやります。

本社：日本人も大変応援に行ったそうですが‥‥。

瀬田：えゝ、本当に心強かったですよ。あゝここに根岸君がいますから、今代りましょう。

根岸：ぼく根岸です。

本社：おめでとう。

根岸：エヘヘヘ‥‥

本社：皆ヘバってそこに寝ているのですか？

根岸：いいえ、みんな元気ですよ。いま昼食を食べたばかりで、いろいろ話をしています。

本社：それで今日のピッチはどの位でしたか？

根岸：そうですねぇ‥‥平均 36 位でした。

本社：低かったですね。コースが長いからですか？

根岸：風がとてもひどかったので、出なかったのです。

本社：どうです、優勝は･･･？

根岸：いや、分かりませんねぇ、へへへ･･･

本社：明日のスイスは？

根岸：スイスは強いですよ･･･我々もできるだけ戦うつもりですから、日本の皆さんにそう伝えてください。

本社：それから先日根岸君のお母さんが、身体のことを心配しておられましたよ。何か伝言はありませんか？

根岸：有難うございます、大丈夫だからと、それだけ言ってください。

本社：それでは優勝を祈っています。お元気で････。

昭和十年一月四日

けふ事實上の決勝

我强敵チューリッヒ

ヘンレー特電二日發

ヘンレー・レガッタ・グランド・チャレンジ盃準決勝番組は左の如く決定した

正午　東大　対　チューリッヒ

午後三時二十分　リアンダー　対　ボストン

即ち三日の準決勝は、日、米、英、スイスの四ケ国クルーによつて戦はれ、翌四日はいよいよ最後の決勝戦に進む段取りであるが、三日の準決勝の東大対チューリッヒの一戦は両クルー共技量優秀、独特の漕法を行するのでその勝敗は最も興味を注がれ、この一戦こそ事實上のファイナリストの貫録を行するものとされ、その勝者は結局優勝者となるものと見られている

有頂天の邦人

狩出して押寄せる

ロンドン二日發同盟　ロイヤル・ヘンレー・レガッタは三日いよいよ準決勝となり第二日における日本クルーの斷然たる強味がますます人気を煽つている。第二日に初の出場をした日本クルーの鮮やかな勝ちぶりは、マローの優勝にもましてイギリス人に深い感銘を與へ、ロンドン各紙は一様に日本クルーの快勝を讃へ、ロンドンの辻々に呼び声を上げる新聞売り子の手にする各紙の大見出しがいずれも「日本勝つ」とあり、街を歩くわが邦人にとつては非常に肩身の広い思いがし、何か目頭の熱くなるのを覚えた

【ヘンレー特電２日発】

3 日のヘンレー・レガッタ・グランド・チャレンジ盃準決勝番組は左の如く決定した。

正午　　東大 対 チューリッヒ

0 時 20 分　　リアンダー 対 ボストン

即ち 3 日の準決勝は、日・米・英・スイスの四か国クルーによって戦われ、翌四日はいよいよ最後の決勝戦に進む段取りである。3 日準決勝の東大対チューリッヒの一戦は、両クルーとも技量優秀、独特の漕法を有するので、その勝敗は最も興味を注がれており、この一戦こそ事実上のファイナリストの貫録を有するものとされ、その勝者は結局優勝者となるものと見られている。

【ロンドン２日発同盟】

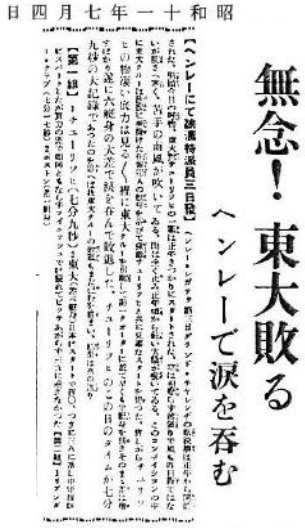
ロイヤル・ヘンレー・レガッタは 3 日いよいよ準決勝となり、第二日における日本クルーの断然たる強味がますます人気を煽っている。第二日に初の出場をした日本クルーの鮮やかな勝ちぶりは、マローの優勝にもましてイギリス人に深い感銘を与え、ロンドン各紙は一様に日本クルーの快勝を讃え、ロンドンの辻々に呼び声を上げる新聞売り子の手にする各紙の大見出しがいずれも「日本勝つ」とあり、街を歩くわが邦人にとっては非常に肩身の広い思いがし、何か目頭の熱くなるのを覚えた。

レガッタが連日の悪天候にも拘らず大観衆を集め得たということについても、実に日本クルーに対する興味の一点にかかっているというのが一般の噂で、ヘンレー駅が数本の大きな日本国旗で装われている。

しかも駅長が下車する日本人を見かけると、お愛想を述べている有様を見るに及んでは、全く有頂天な喜びを感ぜざるを得ないし、また勝負は勝たざるべからずである。

3 日のレースについては、チューリッヒはペースをうまく持っていくというよりは、遅い大きなストロークで確実に漕いで行く漕法を取っているから、我がクルーのスタート技巧は最初先ずリードを奪ってしまい、チューリッヒがこれに追随しつゝ抜き返さんとしても、日本クルーのスパートが恐らくこれを抑え切ってし

まうのではないかというのが一般の下馬評である。なお在留邦人団は、3 日大々的な邦人の狩り出しを行い大応援団を組織し手に手に日章旗を持って小舟に分乗、コースの随所に配し応援するという意気込みである。


昭和十一年七月四日

無念！東大敗る

ヘンレーて涙を呑む

【ヘンレーにて特派員三日発】

ヘンレー・レガッタ第三日グランド・チャレンジの準決勝は正午から開始された。劈頭今日の呼び物、東大対チューリッヒの一戦は、正午きっかりにスタートした。空は相変わらず薄曇りで風も昨日程ではないが肌寒く、苦手の南風が吹いている。雨は全く止み正午頃から鈍い太陽が覗いている。このコンディションの中に東大クルーは応援に押し掛けた在留邦人の歓呼を浴びて強敵チューリッヒとともに見事なスタートを切った。しかしながら、チューリッヒの物凄い底力は見る見るうちに東大クルーを引き離して、第一クオーターにおいて早くも半艇身を抜き、そのまま差は増すばかり。遂に 6 艇身の大差で涙を呑んで敗退した。チューリッヒのこの日のタイムが 7 分 9 秒の大記録であったのを思えば、わが東大クルーの敗戦もまた已むを得まい。結果は次の通り。

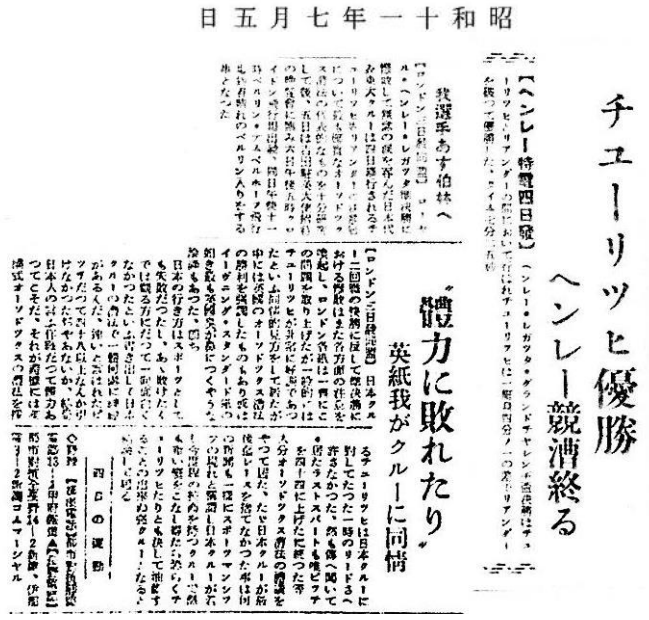
第一組　① チューリッヒ　7 分 9 秒

　　② 東大　6 艇身

スタートで 40、つぎに 38 に落し中頃 44 にスパートしたが実力の差で如何ともならず、フィニッシュでは疲れてピッチ上がらず 39 に終わった。

第二組　① リアンダー・クラブ　7 分 17 秒

　　② ボストン　1 艇身


昭和十一年五月七日

チューリッヒ優勝

ヘンレー競漕終る

【ヘンレー特電四日発】

ヘンレー・レガッタ・グランド・チャンピオン盃決勝は、チューリッヒとリアンダーの間において行われ、チューリッヒは1艇身1/4 の差でリアンダーを破って優勝した。タイム：7 分 25 秒

ロイヤル・ヘンレー・レガッタ準決勝に惨敗して無念の涙を呑んだ日本代表東大クルーは、4 日挙行されるチューリッヒ対リアンダーの決勝戦について、最も確実なオーソドックス漕法の代表的なものを十分研究して後、5 日は吉田駐英大使招待の晩餐会に臨み、6 日午後クロイドン飛行場を出発ベルリン・テンペルホフ飛行場到着、晴れのベルリン入りをすることとなった。

体力に敗れたり

【ロンドン３日発同盟】

日本クルー二回戦の快勝に反して、準決勝における惨敗はまた各方面の注意を喚起し、ロンドン各紙は一斉にこの問題を取り上げたが、一般的にはチューリッヒが非常に好調であったという同情的な見方をしてい

た。しかし中には英国のオーソドックス漕法の勝利を強調したものもあり、あるいはイブニング・スタンダード紙の如き、最も英国臭が鼻につくような論評もあった。

即ち、日本の行き方はスポーツとしても失敗だったし、あのように負けたんでは観る方にだって一向に面白くなかったという書き出しで、日本クルーの漕法で一体どこに神秘があるんだ、速いと言われたピッチだって 48 以上なんか引けなかったじゃないか、結局日本人のいう作戦だって体力あってこそだ、それが証拠には英国式オーソドックスの漕法を採るチューリッヒは、日本クルーに対してたった一時のリードさえ許さなかった。しかも伝え聞いていたラストスパートもただピッチを 44 に上げたに終わった等、大分オーソドックス漕法の礼賛をやっていた。ただ日本クルーが最後までレースを捨てなかったことは、いずれの新聞も一様にスポーツマンシップの現れと称賛し、日本クルーがもし今度程の技術を持つクルーでしかも重い艇をこなし得たなら、恐らくチューリッヒたりとも決して油断することのできぬクルーとなる―と結論している。

昭和十一年七月四日

ツーポス

ヘンレー敗戰の批判

鐵則

重は輕に勝つ

東大クルーは輕量の最上

審判官ピ氏は語る

我が作戰の齟齬

前半の無理祟る

久保監督の觀察談

良い教訓を得た

東エイト總監督談

【寫眞】漕走中の東大クルー

【ヘンレー特電3日発】

本日のヘンレー・レガッタ準決勝でわが東大クルーは、6 艇身の大差で好調チューリッヒに名を成さしむるの已むなきに至ったが、この東大の敗戦についてヘンレー・レガッタの審判官で今日の東大対チューリッヒ戦を審判せる F･I ピットマン氏は、本社特派員に次の如く語った。

『余は日本選手の元気と美しい漕ぎ方、および科学的に周到の研究を重ねたボートの使用などに関し、賞賛を惜しまないものである。しかし今回の日本の漕法もボートも、英国には役に立たないと思う。英国では 50 年も前にボートをさらに短くすべしとの議論が起こり、これを実行してみてダメだったから言わば試験済みで、今さら 50 年前の失敗を繰り返す訳にはいかぬ。結局「良い重量は必ず良い軽量に勝つ」という鉄則は破られない。ヘンレーの如く速流で漕ぐ場合、殊に然りである。東大の今日の成績は、軽量のクルーとしては最上のものであろうと考える。だから今後日本が考えるべきことは、上記の鉄則を考えてベストメンを育成するということにある。幾ら重い選手でも、技量が伴わなければ無論ダメだが、最後の勝利は重いボートが制すると思う』

【ヘンレー特電３日発】　久保監督の談

東大対チューリッヒの一戦を審判艇に乗ってつぶさに観察した久保監督は、次のように語った。

日本の作戦では、前半で 1 艇身程度抜かれても後半で追い抜く予定で、相手がこちらのハイピッチにつられ混乱に陥る隙に乗じて勝ち抜かんと期待した。本日東大のスタートはあまり良くなかったが、予期通り勝ち越したところチューリッヒは 43 ストローク位ですぐ抜いてしまい、こちらも 43 までピッチを上げて追いかけ中程で 48 まで上げて殆ど出し切った形だった。しかるにチューリッヒは、実力の差でその後は終始 36 のピッチに落して好調子で元気な漕ぎ方を続け、どんどん艇差を広げていった。これに反して東大は、前半において強敵に対し無理な漕ぎ方をしたため、フィニッシュでも疲れてピッチが上がらず、刀折れ矢尽きて惨敗したものである。

【ロンドン３日発同盟】　東 エイト総監督の談

わがクルーは、不幸準決勝でチューリッヒのため惨敗させられたが、その善戦ぶりは敗れて悔いなきものがあった反面、この敗戦は今後にオリンピックを控えているだけに、誠に大きな教訓を得たものであると言える。レースは、マイルポストまでは何とか 1 艇身半位の差でついて行かせたいと思っていたが、チューリッヒの力強い漕力は、わがクルーがちょっと 38 位のピッチに下げると、忽ちその差をぐんぐん離されてしまうので如何ともなし難く、結局絶えずピッチを上げていないと到底ついていけないという苦境に陥り、これでクルーはすっかり疲労させられ、最後のスパートも一向に効かないという程であった。

今回このレガッタに出場して得た収穫は、チューリッヒの如き半ば専門的クルーに対しては些か不足するものであるが、わが国大学クルーの実力は、英国のそれに比して全く互角であるということである。
同時に我々としては、チューリッヒの如きストロークを有するクルーに対しては、矢張りピッチで対抗するのほかなく、今日のレースの結果から見ると、なお主力武器のピッチに弱点を見たから、今後は各国クルーを研究するとともにこの点の改善と強化に努めれば、オリンピック大会まではなお 1 か月の余日を有しているから、先ず本日の如き惨敗は二度と繰り返すことはあるまいと信ずる次第である。

ネギシよ頑張れ！
食べ過ぎるな
心配するお母さん
あすヘンレーに出場

20 日のマロー・レガッタに優勝して一躍テームズの花形になったわが東大クルーが、世界的ボートレース「ヘンレー・レガッタ」に出場の日はいよいよ明日だ。「小さな体に小さなボート」― それが外国の大男クルーの数々に勇壮な飛沫を浴びせて、さっさと世界一の勝ち名乗りを上げようとしている。
30 日この小型クルーのキャプテン、工学部電気科 3 年根岸正君(22)の留守宅を訪問してみた。

根岸君は一高から帝大とずっと整調を漕いでいるが、マロー・レガッタの時はイギリスのエキスパートがこぞって「整調ネギシは始終沈着を保ち科学的作戦で漕いだ」と絶賛、キャプテンの貫録をガッチリ示した存在である。
千葉市登戸穴川中 527 の自宅には正君のお母さんあさ子さん(51)独りしかいなかった。長兄巌氏は前橋放送局技師、次兄博氏は逓信省電気試験所勤務、すでに嫁いだ二人の姉と五人兄弟の末っ子が正君である。お母さんはどんな話より先に「父が晴れの日を大変喜んでおりましたのに‥‥」と言う。
正君の厳父・根岸福弥氏は、千葉師範の校長を約十年務めて、昨年 10 月 67 歳

の生涯を終わったのであった。世界制覇の合宿練習から飛んで帰った正君は、臨終の父から「しつかりやれ！」の言葉を残されて‥‥。正君は5月18日の出陣は、勿論父の霊前に「しつかりやる」ことを誓い、母親からの勝守を抱いて発ったのであった。

正君からの手紙は、奉天からとベルリンから二通来ていた。ベルリンに3日着、4日には飛行機でロンドンに行くから忙しいので、この手紙を兄さんたちの家にも回してくださいとあった。

『あの子は父が居りました時はそうでもありませんでしたが、父が亡くなってからは合宿で忙しいのでしょうに、時々帰ってきて一人住まいの私を慰めてくれていました。私にはそれが何よりの楽しみでしたのに…』

息子の手紙を読み耽りつつ世界選手のこの母親は、正君の遠征をちょっと寂しく考えている。そして心配なのが正君の健康 ― 『こちらのお医者の奥さんが「ボートをやると病気になる」と言われますが本当でしょうか？外国に行くと食事が珍しいので食べ過ぎないようにと、くれぐれも言ってやったのですが‥‥。丈は一高の時5尺6寸3分ありましたから、今はもっと伸びていましょうか？』

ボートについてはこのお母さん頗る心細いファンで、ヘンレー第一予選の出場日も知らない程度である。

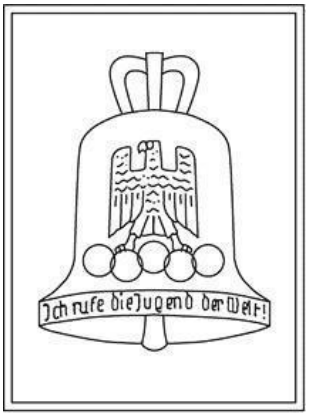
『瀬田先生、東先生にお任せきりです。勝敗は時の運と思って‥‥ただ皆さんが身体だけ損なわずに帰ってくるよう祈っております』

世界の視線を集めたネギシ主将の母親は、こう祈って愛息への手紙を考えるのであった。

オリンピック・ベルリン大会

フォア三着

【グリュナウ 朝日新聞特設電話】（8月11日）



THE
XI TH OLYMPIC GAMES
BERLIN, 1936

日頃からベルリン子の誇りとしている水と森の都グリュナウは、いよいよ11日クルー競技第一日とあって日曜以上の大人出、日の光は強いが風が相当にあって涼味横溢、見物にはもってこいだがクルーには大いに難儀だ。殊に見ものなのは、ドイツ工兵隊の出動でコースの前後に橋を架けて、一般の船の交通を遮断したことだ。水路係りにも兵隊さんの姿が隠見している。

コンディションは風速 5mの順風、日本のフォア選手は例によって白鉢巻き姿も勇ましく、「富士」に乗り込んで出発の合図を待った。ドイツの見物連はこの鉢巻き姿が珍しいのだろう、好奇の眼をもって「ヤパンヤパン」と呼んで声援する。日本の相手はオランダ、ブラジル、デンマークだ。いよいよスタートが切られる。各国語の声援の嵐の中にレースは刻々に変化し、先頭のオランダから3艇身も遅れていたわがクルーは、力漕また力漕、ゴール間際では僅か1艇身半までにその差を縮めて3着となった。残念だが12日敗者同士の決戦に出て、何とか名誉を取り返さねばなるまい。

フォア： ① オランダ 6’59” ② ブラジル 7’1”2 ③ 日本 7’4”2 ④ デンマーク

強豪に伍して エイト四着 ―わが漕艇陣振るわず―

【グリュナウ特設電話】（8月12日）

グリュナウの空は12日も朝から晴れ渡って、風は斜め3mの順風、湖上は波さえなく絶好の漕艇デー。周囲の美しい景色にもよろうが、スポーツ・フィールドのプールに比べて溢れるような興奮の渦がなく、一

層の長閑ささえ漂っている。

レースは午後3時(日本時間午後11時)から、エイトとペアの両予選、それにフォアの舵手無と舵手付で前日敗れたクルー同士のレースが行われた。

わがエイト代表クルーは、仏国と大接戦を演じ力漕また力漕したが、惜しくも敗れ四着となった。

英米クルーは断然強く終始大接戦を続け、米艇は約半艇身の差で英艇を退け6分0秒8で一着となり、英艇は6分2秒1であった。大接戦の末仏国に敗れたわがクルーの記録は、6分12秒3であった。

漕艇振はず

フォア・エイト失格

【グリュナウ特設電話】(8月13日)

13 日は漕艇競技第三日だが、朝からの薄曇りに美しいグリュナウの水も灰色に染まって、何となく重苦しい感じがする。殊にこの日は何れも敗者戦とて、見物人の気持ちも余りぱっとしない。

レースは午前9時(日本時間午後5時)から始まったが、わが舵手付きフォアは午後2時から挙行、今日こそは最後のチャンスとばかり大いに頑張ったが、微風とは言いながら2mの逆風では得意のハイピッチにははなはだ不利な状態にあり、遂にデンマークに第一位を譲って二位となり、決勝戦への出場資格を失った。

またエイトクルーも二位となり、遂に失格した。

フォア

① デンマーク　8’09”1　② 日本　8’14”4　③ チェコ　8’20”9　④ ブラジル　8’26”0
⑤ スウェーデン　8’34”4

エイト

① イタリア　6’35”0　② 日本　6’42”3　③ ユーゴ　6’47”3　④ ベルギー　7’06”1

【東大クルー】

	舵手	霜島　正	5 尺1寸8分	12.0 貫	武蔵高
主将	整調	根岸　正	5 〃6 〃2 〃	16.2 〃	一高
	七番	柏原　勝	5 〃6 〃0 〃	17.2 〃	一高
	六番	関川 主水	5 〃9 〃0 〃	20.0 〃	一高
	五番	三田　勇	5 〃9 〃3 〃	17.8 〃	三高
	四番	北村　修	5 〃6 〃5 〃	17.9 〃	一高
	三番	中川 春好	5 〃7 〃0 〃	17.8 〃	八高
	二番	堀　武男	5 〃6 〃5 〃	16.6 〃	一高
	舳手	鈴木 善照	5 〃9 〃5 〃	16.2 〃	一高
		平均	5 〃7 〃0 〃	16.5 〃	

昭和十一年二月八日

造艇界に日章旗

大先輩の英國から
ボートをたのむ
最高權威・リアンダー・クラブ
大使館を通じ注文

熱心さに榮冠
ボート兄弟の千葉氏一家
譽れのデルタ造船所

【報道記事】

わがオリンピック・ボート代表東大エイトクルーは、ベルリンでは惜敗したが、ボートの国英国でマロー、ヘンレーの両レガッタに馳せた勇名は非常なものであった。小粒選手の猛烈な頑張りとともに、わが造艇界総動員で作った日本製小型ボートが、造艇技術上世界驚異の的となったのである。そして遂に、名実ともに世界第一に位する英国リアンダー・クラブでは、わが遠征軍の代表者を通じてわが国に向かってボート製作の内交渉があり、近く大使を通じ正式に注文を発する運びにまでなり、世界ボート界に堂々日章旗掲揚となったわけである。

この東大クルーがヨーロッパの各試合に使用したボートは、本年三月デルタ造船所で完成された『旭』号で、この製作代表者はアムステルダム五輪大会に初めて日本から参加したクルーのコーチ・千葉四郎氏だ。

それ以来同氏は「体力の劣る日本クルーは、ボートの改造によって外国の大男クルーに向かう必要あり」と考え、苦心惨憺して設計したものである。そのためにわが国の造船界の権威者・井口常雄博士や平賀譲博士らを網羅したブレイン・トラスト(専門顧問)造艇委員会まで組織し、昨年末試験艇『暁』号を作って実際に研究の上完成した、これ以上はないというボートである。

その特徴は「軽くて丈夫」であることに尽きるが、一般外国のエイトのボートに対して艇の長さ 60 尺が 52 尺、重量 35 貫が 27.8 貫、オール一本の重さでも 1 貫から 1.1 貫のものが単に 800 匁から 850 匁位。

さらにシートが、従来のものは一枚の板で作っているのに対して『旭』号は三枚を重ねたもので、いくら薄く削っても割れるようなことはなく、そのシートのレール部分がえぐってあって、油の散逸を防ぐ。

またオールは、従来内部がデルタ型(三角形)にえぐってあったものを、より軽くするために、中に心棒を入れてファイ型(心棒のある円形)にえぐり、非常に軽くなったわけである。このシートとオールの工夫は全く千葉四郎氏の考案で、既に特許もとってあるものである。

以上の特徴を持つ「小型ボート」がまず世界の注目を惹いたのは、6 月のマロー・レガッタにわがクルーが急ピッチで見事に優勝した時に始まり、ヘンレーで善闘するに及んで、いよいよこのメイドイン・ニッポンの小さなボートが専門家の注視の的となった。

ベルリン・オリンピックでもそのボートを見物しようという人が押しかけて、練習の持ち出しに困ったほ

どだったという。最近千葉氏のもとに届けられたわがボート代表総監督・東俊郎博士およびエイト監督・久保勘三郎氏からの手紙には、いずれもその人気の模様を伝えたうえ、「リアンダー・クラブでは日本にボートを注文することになり、自分たちが帰国する頃、ロンドンのわが大使館を通じて正式に申込まれる筈である」としたためてあった。

リアンダー漕艇協会と言えば、ケンブリッジ、オックスフォードのあの有名な競漕を漕いだことのある選手を中心に、少なくとも大レースで入賞したボートマンを以って組織された協会である。わが国では大倉喜七郎男爵が唯一のメンバーとなっている世界最高権威の漕艇協会で、そこからわが国に注文があることは、取りも直さず日本の造艇技術が世界第一となる訳で、千葉氏も非常に乗り気になっている。

千葉四郎氏の横顔

尾久デルタ造船所と横浜ヨット工作所の代表者である千葉四郎氏(41)は、千葉県多額納税者・千葉弥次馬氏の弟で、三郎、四郎、五郎、六郎の五人兄弟。五郎氏はベルリンに早大フォア・クルーの監督として行っており早大ボート部の先輩。そしてデルタ造船所で兄のもとに支配人を勤めている、兄弟揃ってのボートマンである。

四郎氏は大正 10 年東京帝大造船科の出身、一高、帝大ともにボート選手を送り、卒業製図は友達が皆大きな商船等を描くのに、千葉氏はフォアのボートをただ一枚提出し、卒業後早速デルタ造船所を起こしてボート製作に乗り出した。アムステルダム大会に初めてコーチとして渡欧した時には、試合に敗れてからその足で世界ボート行脚を志し、遠く南米アマゾンの奥地まで行った。

そこでドイツの青年会社員がボートを漕いでいたのに驚いたり、結局世界中のボート・コースを詳細に調査して帰ったほどの熱心な人で、今度わが漕艇界にとって大先輩である英国からボートの注文があったのも、実に千葉氏の熱心さがもたらした栄冠である。

千葉四郎氏 談

東君や久保君それに弟の五郎からの手紙に、リアンダーが大使館を通じて申し込むと言ってきました。皆が帰ってから正式に決まると思います。英国には世界のボートを一手に引き受けている有名なシムス造船所があり、日本も明治何年かそこから初めてボートを買い、その後も作って貰っていました。アムステルダム大会の日本のボートも、私がその造船所に行って直接見ながら作って貰ったのでした。

今度のボートは、特に宮内省の好意でボートの用材としては最適の木曾御料林の檜を使い得たことが第一です。技術的には、私がパテントを取っているシートとオールの点もあり、全体にくりぬいた部分が多く非常に軽いので、外国人も驚いたのでしょう。

向こうからの手紙によると、リアンダーの連中も特にオールとシートの点に注意しているとのことで、その点私達の苦心も認められた訳です。

私は今度のボート製作で、もうレース・ボートを作るのは止めようと思っていましたが、東京に五輪大会が決まったので、矢張り作らねばならぬと思っているところにリアンダーからの話となったので、用材の点もその他技術的にも、何とかして恥ずかしくないボートを作りたいと考えているわけです。

（完）